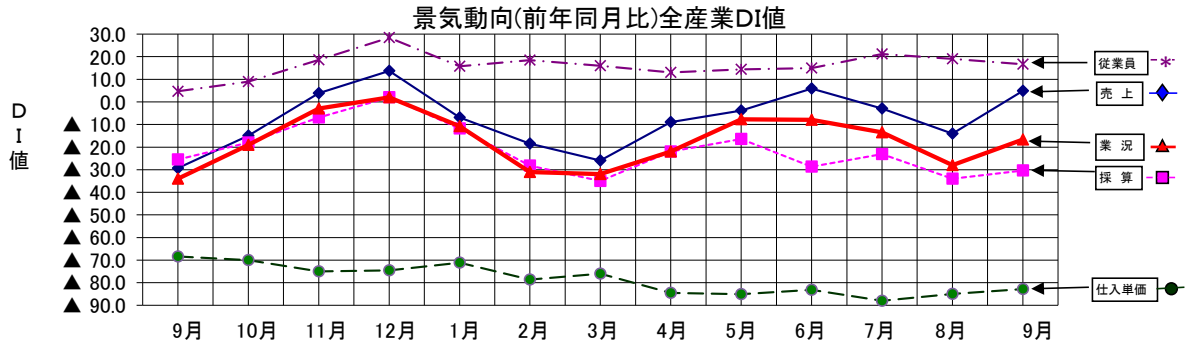
早期景気観測調査　新潟商工会議所管内　９月分

【9月の概要】　　DI値は前月から好転するも力強さには欠ける
行楽シーズン等へ向け希望も持てるが、全体的に依然マイナス水準

業況判断を示すDI値は、全体的に上昇に転じており、「売上」（＋18.9）と「業況」（＋11.3）で２ケタ台の改善で、「売上」は3ヵ月ぶりにプラス水準に戻した。一方で、その他のDI値は依然としてマイナス圏内である。先行き見通しについてもほぼ同様の結果となった。

寄せられたコメントでは、物価高の影響を受けながらも、企業努力を続ける様子が窺われる。秋の行楽シーズンや年末の繁忙期に向かって明るい見方もあるが、物価上昇や円安の影響がどこまで続くか、予断を許さない。



【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)＝(良い割合)－(悪い割合)

	2021年9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	2022年9月	
売上	▲ 29.3	▲ 15.0	3.9	13.7	▲ 6.9	▲ 18.5	▲ 26.0	▲ 9.0	▲ 3.9	5.9	▲ 2.9	▲ 14.0	4.9	↗
採算	▲ 25.5	▲ 18.0	▲ 6.9	2.0	▲ 11.8	▲ 28.2	▲ 35.0	▲ 22.0	▲ 16.4	▲ 28.7	▲ 23.1	▲ 34.0	▲ 30.4	↗
業況	▲ 34.0	▲ 19.0	▲ 2.9	2.0	▲ 10.8	▲ 31.1	▲ 32.0	▲ 22.0	▲ 7.7	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 28.0	▲ 16.7	↗
仕入単価	▲ 68.4	▲ 70.0	▲ 75.0	▲ 74.5	▲ 71.1	▲ 78.6	▲ 76.0	▲ 84.5	▲ 85.1	▲ 83.2	▲ 88.0	▲ 85.0	▲ 82.8	↗
従業員	4.7	9.0	18.6	28.4	15.7	18.5	16.0	13.0	14.4	14.9	21.2	19.0	16.7	↘

・マイナスからプラスに転じたDI値：売上18.9ポイント
・マイナス幅が減少したDI値：採算3.6ポイント、業況11.3ポイント、仕入単価2.2ポイント
・プラス幅が減少したDI値：従業員▲2.3ポイント（需給均衡局面へ）

向こう３か月間の先行き見通し

	売上(受注･出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
7月	▲ 1.9	▲ 20.2	▲ 12.5	▲ 63.5	23.1
8月	▲ 8.0	▲ 23.0	▲ 22.0	▲ 59.0	25.0
9月	5.9	▲ 22.6	▲ 10.8	▲ 67.7	22.6

・見通しが改善したDI値：売上13.9ポイント、採算0.4ポイント、業況11.2ポイント、従業員▲2.4ポイント（需給均衡局面へ）
・見通しが悪化したDI値：仕入単価▲8.7ポイント

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	ゼネコン	民間の建設投資が徐々に再開し始めているが、仕入価格の高騰で採算面を意識した慎重な交渉が続く。
	リフォーム	原材料のほとんどが値上がりしている中、価格転嫁が進んでいないのが現状。
製造業	印刷	規制緩和と経済政策により、年末に向かって個人消費や人流も昨年よりは増えつつある。
	溶接	材料価格は高止まり。人手不足ではあるが、少しずつ若い人が入ってきている。
卸売業	食品	業況は好転しているが、円安傾向での値上げラッシュが消費マインドにどのように影響していくか不安。
	青果	コロナ感染者は高止まり傾向であるが、秋の行楽シーズンに向け観光需要に期待できる。
小売業	印鑑他	ウクライナ情勢が落ち着くまではエネルギー価格の高止まりが続くと思われる。
サービス業	看板	9月1日より今年に入って2回目の原材料値上げがあり、価格に転嫁せざるを得ない。
	清掃	半導体不足や物価高でじり貧状態。また、10月からの最賃引上げや社保適用拡大等で採算悪化は免れない。
	タクシー	全員の努力で日中は忙しく仕事量も増加しているが、22時以降は稼働が少なく、燃料費高騰も大きなダメージ。